(Accelerando) 木版多色摺 29,3×41.9cm 2005年 ed.30

SHINOHARA Keiji

品の発表を行っている。
し、現在はコネチカット州ウェズリアン大学で版画を教えながら作し、現在はコネチカット州ウェズリアン大学で版画を教えながら作たって伝統木版画家として作品を発表する傍ら摺師としても活動の修業の後1985年にアメリカに渡った。そこから再び10年にわる歳で京都の木版画摺師・上杉猛に師事した篠原奎次は、約10年

り情景的な画面へと変化している。でいるという。それにより作品も風景が前面に表れたものから、よの背後にある歴史や、人と自然とのかかわり方などへと広がってきの背後にある歴史や、人と自然とのかかわり方などへと広がってき感じた静けさや寂しさ、清らかさといった情趣を伝統木版の技術を感原はこれまでアメリカの風景や自然をモチーフとして、自身の篠原はこれまでアメリカの風景や自然をモチーフとして、自身の

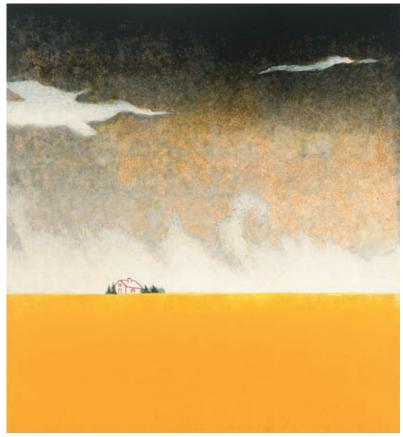
した篠原の新たな展開がはっきりと表れている。が初めて発表されるが、その作品には記録と人とのかかわりに着目無限の囁」では、最新シリーズの「Memory of Wander (彷徨の記憶)」 3月に京都のアートゾーン神楽岡で開催される個展「篠原奎次:



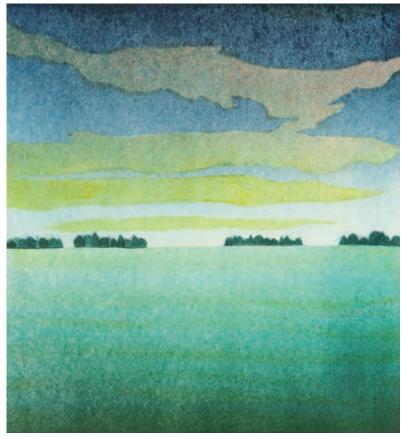
《Silver River》 木版多色摺 41.5×33cm 1998年 ed.30



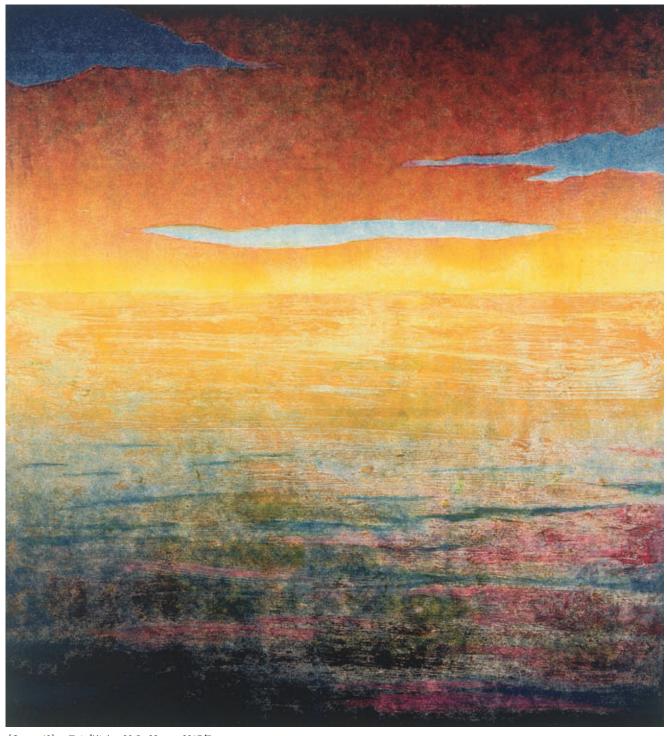
《Symphony》 木版多色摺 32.5×32.8cm 2002年 ed.50



《Opus-41》 モノプリント 30.5×28cm 2017年



《Opus-33》 モノプリント 30.5×28cm 2016年



《Opus-40》 モノプリント 30.5×28cm 2017年



《Memory of wander-2》 モノプリント、写真版 29×15cm 2018年



《Memory of wander-10》 モノプリント、写真版、ドローイング 29×15cm 2018年



《Memory of wander-6》 モノプリント、写真版、ドローイング 29×15cm 2018年



《Memory of wander-3》 モノプリント、写真版、ドローイング 30.5×27.5cm 2018年

上西郁美

無限の囁」に寄せて

を醸し出すのが、篠原の鋭い穿ちである。 を醸し出すのが、篠原の鋭い穿ちである。

生だろう。 鉛筆で描き込んだ木の枝をダブらせる。 of Wander-6》に写る人物は、 彷徨っている記憶を映像化させる。一方《Memory 憶を蘇生することであろう。例えば、《Memory of る大正時代を思わせるような電灯を縦の線で見事に だ。篠原は、直立した人物と垂直にぶら下がってい Wander-2》に現れる人物は、髪を丁寧に七三分け が、それは忘れ去られることを前提に成り立って 記憶は、記録されることによって保存され 照れ臭そうにこちらを見ている大学の陸上選手 この無名のランナーにスポットライトを当て 思い出すということは、 右手を飛行機に持たせかけて立つ姿に、 空軍に入隊した大学 彷徨っている記 横に大きく

人の記憶であり社会全体の記憶でもある。の中で生きたパイロットが飛行中に見た空の風景との中である、カー杯漕いで見上げた空と、軍隊社会の中にある、カー杯漕いで見上げた空と、軍隊社会の中にある。

このシリーズでは、この鉛筆画の描き込みがもうこのシリーズでは、この鉛筆画の描き込みがもうにあるという職人気質の信念を貫く篠原だが、全て摺り上がってからの描き込みで、大敗は許されない。描き加えるデザインは、人物写真を選ぶ時点でひらめいているという。モノタイプ中間技法を使い、風景を上下二分した中に最後に挿印刷技法を使い、風景を上下二分した中に最後に挿印刷技法を使い、風景を上下二分した中に最後に挿印刷技法を使い、風景を上下二分した中に最後に挿印制技法を使い、風景の深みの極意は「ぼかし」と習慣が許さない。風景の深みの極意は「ぼかし」と習慣が許さない。風景の深みの極意は「ぼかし」と習慣が許さない。風景の深みの極意は「ぼかし」であるという職人気質の信念を貫く篠原は、今回のであるという職人気質の信念を貫く篠原は、今回のであるという職人気質の信念を貫く篠原は、今回のであるという職人気質の信念を貫く篠原は、今回のであるという職人気質の信念を貫く篠原は、今回のであるという職人気質の信念を描くのは苦手だ」と

いった音楽用語を題名にしたものが多い。例えばりカで活躍する。作品はアリアとかシンフォニーとし、日本名所を売り物にしない作家としてアメリカで活躍する。作品はアリアとかシンフォニーとの日本の名所を整了した。篠原は、その傾向とは一線を画り対人を魅了した。篠原は、その傾向とは一線を画り対人を魅了した。篠原は、その傾向とは一線を画りがついた音楽用語を題名にしたものが多い。例えばいった音楽用語を題名にしたものが多い。例えばいった音楽用語を題名にしたものが多い。例えばいった音楽用語を題名にしたものが多い。例えば

定の場所を離れ心理的風景を追求する作品だ。いう音楽用語のついた作品は、雨音が早くなる景色いう音楽用語のついた作品は、雨音が早くなる景色を聞くという行為と連鎖し絶妙だ。まるで、香りをを聞くという行為と連鎖し絶妙だ。まるで、香りをを聞くという行為と連鎖し絶妙だ。まるで、香りを

(KAMINISHI Ikumi アメリカ・タフッ大学美術史学課准教授) 016年夏ウェズリアン大学の休暇期間中に客員教 016年夏ウェズリアン大学の休暇期間中に客員教 16年夏ウェズリアン大学の休暇期間中に客員教授として招かれたデンマーク滞在だ。当地の風景版 に下絵を描き、表に色分けし、薄い色から濃い色へに下絵を描き、表に色分けし、薄い色から濃い色へに下絵を描き、表に色分けし、薄い色から濃い色へに下絵を描き、表に色分けし、薄い色から濃い色へは、フラットな黄色い面と赤い輪郭で描く家とで新は、フラットな黄色い面と赤い輪郭で描く家とで新は、フラットな黄色い面と赤い輪郭で描く家とで新ば、アラットな黄色い面と赤い輪郭で描く家とで新ば、アラットな黄色い面と赤い輪郭で描く家とで新ば、アラットな黄色い面と赤い輪郭で描く滚原の「無限の囁」を少し盗み聞きできるに違いない。(KAMINISHI Ikumi アメリカ・タフッ大学美術史学課准教授)



篠原筆次 SHINOHARA Kejji 1955年大阪府に生まれる。75年 木版画摺師に師事。10年後ボストン に渡り、木版画を教えながら創作版 画を制作。95年ウェズリアン大学に 酒を制作。95年ウェズリアン大学に あ。2015年米国郵便局の依頼で る。2015年米国郵便局の依頼で ローシップを受け制作を行う。